

医師の目線で開発した日本初^{※1}のAI搭載「新医療機器」^{※2}

インフルエンザの診断に役立つ情報には、インフルエンザ濾胞の所見や、特定の症状の組み合わせ、また鑑別のため扁桃や軟口蓋に他疾患に特異的な所見が出ていないことなど、問診と診察で得られるだけでも様々なものがあります。これらを含め、50万枚以上の咽頭画像データベースを元に学習して構築されたAIを搭載したカメラが nodoca です。

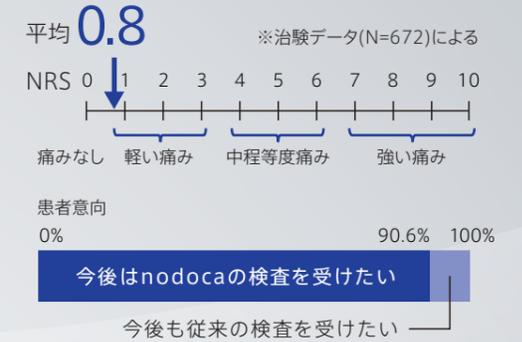
この度、nodocaは、新医療機器として厚生労働省の製造販売承認を得るとともに保険適用となりました。保険点数(診療報酬、裏表紙参照)も従来のインフルエンザウイルス迅速検査キットを用いた診断の場合と同じ(305点)となります。



01 患者負担が小さい新しいインフルエンザ検査

nodocaで撮影した咽頭画像と体温や自覚症状等をAIが解析することで、判定開始から数秒～十数秒でインフルエンザ判定結果を取得可能です。治験時のNRSによる痛みの評価も平均 0.8 と低く、検査時間の短縮による待ち時間の削減、及び痛みの少なさの点において、患者さんに負担の小さいインフルエンザ検査の提供が可能です。

実際に、治験参加者の90.6%が「今後はnodocaの検査を受けたい」と回答しています。



02 判定開始から、数秒～十数秒^{※3}で判定結果取得

nodocaは一連の診察から検査完了までを、診察室内でスピーディーに行えます。判定開始から数秒～十数秒でインフルエンザ感染症に特徴的な咽頭所見・症状の検出の有無がわかるため、患者さんに待合室に戻ってもらうことなく、その場で検査結果をお伝えできます。忙しい医療現場で、効率的な診察をサポートします。

※インフルエンザウイルス感染症の診断は従来の検査法と同様に、本品による判定結果のみで行わず、臨床症状や他の診察結果などと併せて医師が総合的に判断してください。



nodocaが提供する新しいインフルエンザ検査の流れ

03 咽頭専用カメラにより、咽頭をクリアに撮影可能

咽頭の鮮明な撮影のために、専用カメラを新規開発しました。高精細レンズ、ペンライトを兼ねた高輝度白色LED照明、ディスプレイが視線を遮らない独自のストレートライン構造、舌圧子の機能を兼ねたカメラカバー(クリアシース)等、咽頭をクリアに撮影できる様々な技術を採用しています。クリアシースを装着することで、簡単に、かつ感染予防にも配慮しつつ撮影できます。

カメラで撮影された画像は、Wi-Fi経由でnodocaクラウドに保存され、お手持ちのPCやタブレット端末のWebブラウザから閲覧できます。また、撮影手技による精度のばらつきが減るように、AI判定に適した画像をAIが選別する標準化プロセスを採用しています。

